

34 財団法人国立旭川医科大学設置協力会資金計画

自昭和47年至昭和53年

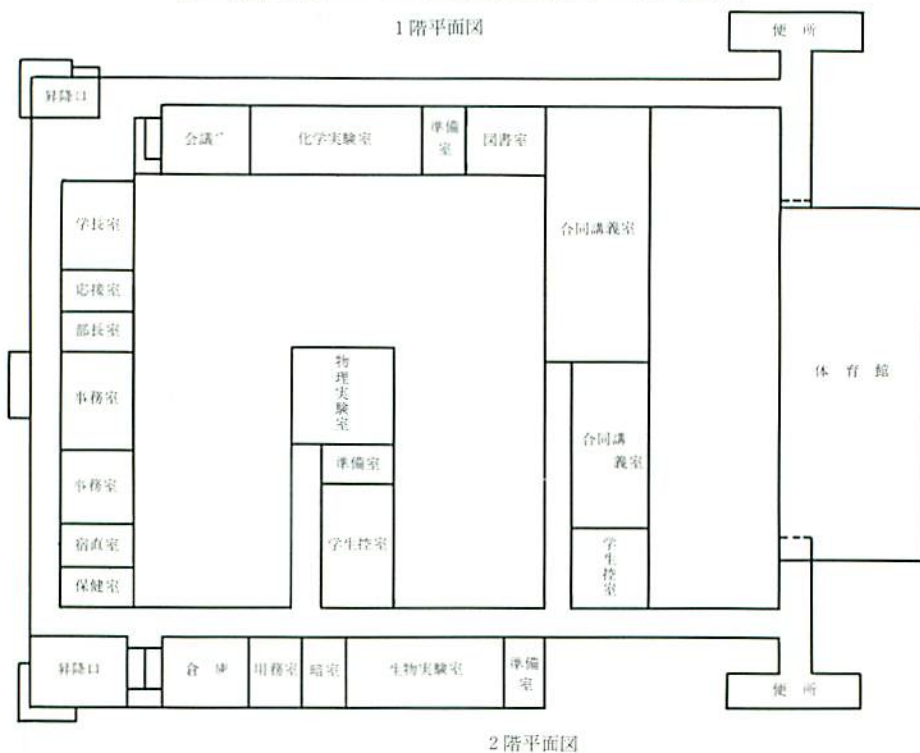
取 入 の 部

科 目	予 算 額	摘 要
寄 附 金	300,000	
道 費 補 助 金	1,249,676	
計	1,549,676	

支 出 の 部

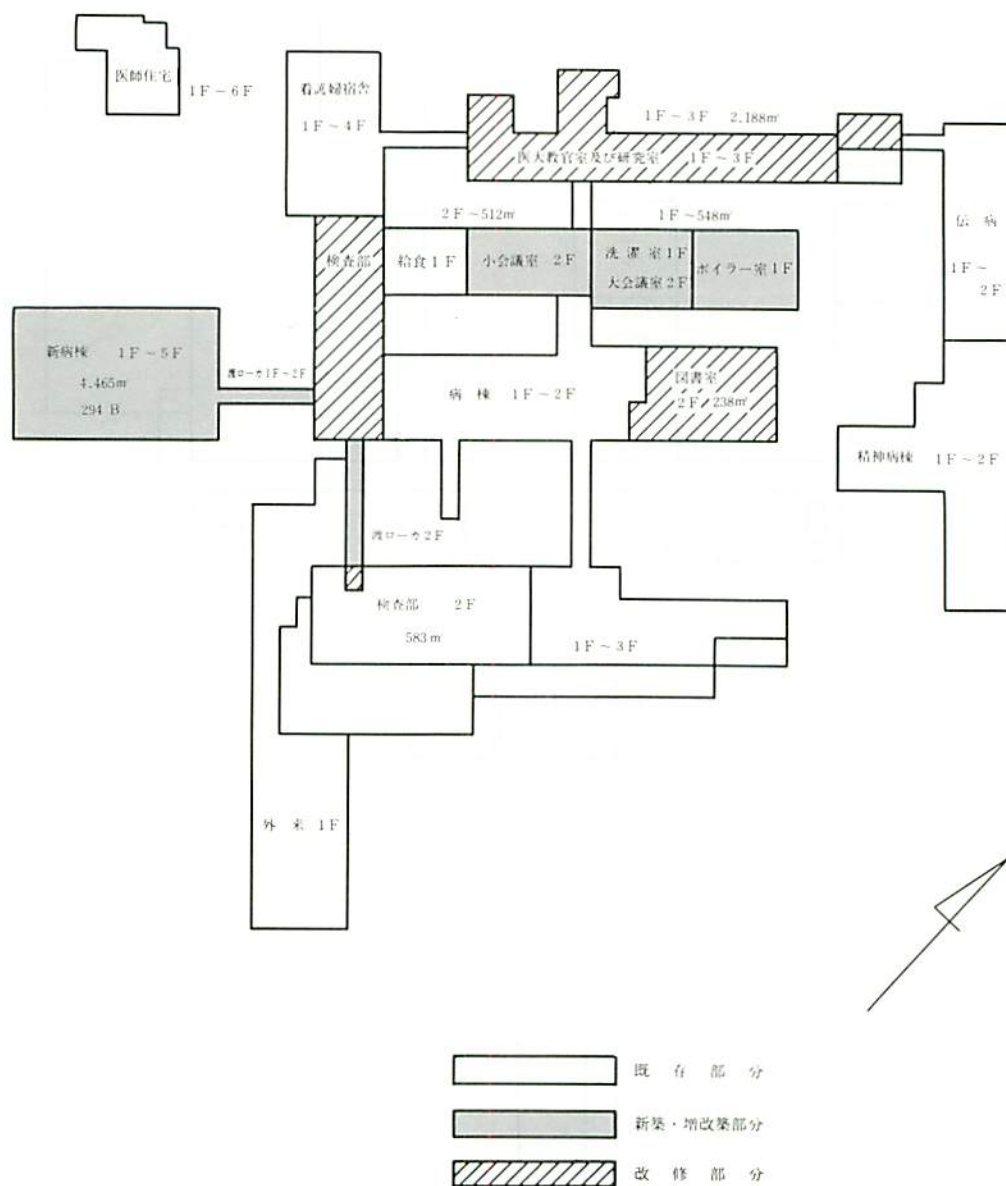
科 目	予 算 額	摘 要
1. 事 業 費	1,525,176	
(1) 仮校舎整備費	260,100	47年度
(2) 宿舍用地取得費	162,976	48年度
(3) 宿舍建設費	700,000	48年度～52年度
(4) 教育病院助成費	395,100	47年度
(5) 設置協力費	7,000	47年度
2. 法人運営費	24,500	
事務費	24,500	47年度～53年度
計	1,549,676	

35 48年開校のための医進課程仮校舎の改修平面図



敷地面積	19,666㎡
建物面積	
1階	3,429㎡
2階	927㎡
計	4,356㎡

36 市立旭川病院整備後の配置図



37 国立旭川医科大学設置に伴う受入れ体制の整備について（昭和48年1月4日）

文部大臣 奥野誠亮殿

北海道知事 堂垣内尚弘

1 校地および附属病院用地について

旭川市神楽町神楽岡3番地の13に所在する223,836平方メートルの道有地に国立旭川医科大学を建設することを承諾する。

なお、未取得の用地7,724平方メートル（国有地4,053㎡・市有地3,067㎡・計7,120㎡）については、この建設に支障を来たさないよう早急に取得する。

2 教職員の宿舎について

教職員の宿舎として130戸（1戸当り60㎡～80㎡）を整備し、国家公務員なみの宿舎使用料により貸与する。

なお、教職員の確保と建設時期との関連で必要がある場合は、借り上げの措置をもって入居を確保し、この借り上げ期間については、国の宿舎建設年次との関連において弾力的に配慮する。

3 関連教育病院の整備について

関連教育病院として予定している市立旭川病院の整備内容のうち、大学設置審議会予備審査における指摘事項については、大学と協議し整備に努力する

4 エネルギーサプライ等の整備について

別紙のとおり整備する。（別紙略）

5 看護婦の確保について

別紙の計画にもとづき確保するよう努力する。（別紙略）

6 解剖体の確保について

(1) 白菊会員の増加計画

現在北海道白菊会員は、北海道大学および札幌医科大学の所在地の関係から道央を中心に所在している。従って、今後は国立医大との関係から道北および道東を主として会員の増加を図る。

(2) 解剖体の確保計画

開校に伴う実習に必要な解剖体の提供については、北海道大学および札幌医科大学の協力を得るとともに、さらに旭川市を中心とした道北地域13市の社会福祉事務所から年間協力体数として52体の確保を得ている。

38 当該地域における医療機関の配置状況

10キロ圏内 294,984人 旭川市

	医療機関数	病床数	入院患者数	外来患者数	計	医師数	医師1人当り人口
病 院	39	5,241	4,424	6,692	11,116	173	910.5
診 療 所	152	1,025	544	9,965	10,509	151	
計	191	6,265	4,968	16,657	21,625	324	

- ※病院, 診療所=病床数に対する入院患者数の比率 0.79%
 病 院=病床数に対する入院患者数の比率 0.79%
 診療所=病床数に対する入院患者数の比率 0.53%
- ※病院, 診療所の入院, 外来患者総数に対する比率 入院 0.23% 外来 0.77%
 病 院=入院, 外来患者総数に対する比率 入院 0.4 % 外来 0.6 %
 診療所=入院, 外来患者総数に対する比率 入院 0.05% 外来 0.95%

20キロ圏内 350,041人

旭川市・美瑛町・当麻町・上川町・比布町・愛別町・東旭川町・東神楽町・鷹栖町

	医療機関数	病床数	入院患者数	外来患者数	計	医師数	医師1人当り人口
病 院	42	5,696	4,778	7,000	11,778	184	983.3
診 療 所	179	1,194	622	11,349	11,971	172	
計	221	6,890	5,400	18,349	23,749	356	

- ※病院, 診療所=病床数に対する入院患者数の比率 0.78%
 病 院=病床数に対する入院患者数の比率 0.78%
 診療所=病床数に対する入院患者数の比率 0.52%
- ※病院, 診療所の入院, 外来患者総数に対する比率 入院 0.23% 外来 0.77%
 病 院=入院, 外来患者総数に対する比率 入院 0.41% 外来 0.59%
 診療所=入院, 外来患者総数に対する比率 入院 0.05% 外来 0.95%

同一都道府県内 5,259,648人

	医療機関数	病床数	入院患者数	外来患者数	計	医師数	医師1人当り人口
病 院	494	68,826	58,059	73,828	131,887	2,748	997.4
診 療 所	2,769	17,764	10,090	153,487	163,577	2,527	
計	3,263	86,590	68,147	227,315	295,462	5,275	

- ※病院, 診療所=病床数に対する入院患者数の比率 0.79%
 病 院=病床数に対する入院患者数の比率 0.84%
 診療所=病床数に対する入院患者数の比率 0.57%
- ※病院, 診療所の入院, 外来患者総数に対する比率 入院 0.23% 外来 0.77%
 病 院=入院, 外来患者総数に対する比率 入院 0.44% 外来 0.56%
 診療所=入院, 外来患者総数に対する比率 入院 0.06% 外来 0.94%

39 旭川医科大学設置準備の概要

- 1 教育の基本構想（略）
- 2 校舎等の建設地および建築計画

建設用地は、神楽岡団地の造成地に隣接する平坦な台地に位置し、特に整地工事の必要はなく、その概要は次のとおりである。

	概 要	備 考
位置および面積	所在地は、旭川市神楽町神楽岡3番地の13にあり、旭川駅から直線で南に3.5キロメートル、バスで15分の川に挟まれた丘陵地で平坦な台地であって、旭川市の神楽岡ニュータウン(計画人口10,200人、計画戸数2,770戸、面積94万平方メートル)に隣接している自然環境に恵まれた静穏な地で、面積は231,603平方メートル(70.059坪)の1区画地である。	
所 有 者	北 海 道 (223,836.57平方メートルを昭和47年10月13日に旭川振興公社から買収したが、残り7,724平方メートルの市道、農道分は取得の手続きを進めている。)	
基 盤 整 備	上、下水道については、神楽岡ニュータウンの布設管では不足するので、それぞれの需要に応ずるため、別ルートの配管布設とポンプ施設の新設を昭和48年度において実施する。 必要とするガス供給については、旭川ガス株式会社が都市ガス高圧管の布設を昭和47年度において実施済みである。 電力、電話については、現在の神楽岡ニュータウン供給施設で必要量の確保は可能である。	

校舎および附属病院等の建築計画については、基本設計が出来あがり目下、キャンパス内の実施設計の策定中であるが、現在における建築計画の概要は次のとおりである。

	概 要	備 考
校 舎	医進課程校舎については、昭和48年3月から実施が計画されており、完成は昭和48年度に見込まれている。 専門課程の基礎校舎部分については昭和48年3月から実施が計画されており、昭和49年度完成が見込まれている。	
附 属 病 院	専門課程の臨床校舎部分については昭和48年度よりの実施が計画されており、昭和50年度完成が見込まれている。 附属病院の規模は、17診療科、600床である。この工事については、昭和48年度よりの実施が計画されており、	

概	要	備 考
福利補導施設 学生寄宿舎 図書館 講 堂 体育館 看護婦宿舎 看護学校 看護寄宿舎 本部管理部 設備機械室 基幹整備 環境整備	昭和50年度完成が見込まれている。 上記の外左記施設等の建設および整備がそれぞれ計画されている。	

3 進学課程仮校舎

開校当初に必要な進学課程の校舎は、北海道教育大学旭川分校附属小学校旧校舎（施設の管理者は文部省）を仮校舎として本校舎建設までの間使用するものとし、その概要は次のとおりである。

概	要	備 考
位 置	所在地は、旭川市北門町9丁目にあり、旭川駅から直線で北に2.6キロメートル、バスで10分の教育大学旭川分校の向にある。	
敷地面積	19,666平方メートル(5,949坪)うち、グラウンド面積6,853平方メートル(2,076坪)	
建物面積	1階 3,429平方メートル(1,037坪) 2階 927平方メートル(281坪) 計 4,356平方メートル(1,318坪)	

名 称	室 数	面 積	備 考
講 義 室	3	397m ²	
実 験 室 等	8	543	準備室，暗室含
学 生 控 室	2	121	
図 書 室	1	65	
体 育 館	1	550	器材庫含
教 官 室	6	395	講師控室含
事務室等管理部門	14	558	会議室，学生部，倉庫含
廊 下 そ の 他		1,727	
計	35	4,356	

4 関連教育病院（市立旭川病院）の整備計画

市立旭川病院は、石狩川と牛朱別川の合流点に位置し、道北地域の基幹病院としての使命を果たしているが、昭和48年度から旭川医科大学の暫定施設として大学の建物が完成するまでの間さらに、関連教育病院として研究ならびに学生の講義および実習の場として使用するため現在施設の改修、病棟の新築、機械器具、図書の実をこなしたが、その概要は次のとおりである。

	概 要	備 考
位 置	所在地は、旭川市金星町1丁目43番地にあり、旭川駅から直線で北東に1.7キロメートル、バスで10分進学課程仮校舎から1.5キロメートル、大学建設予定地から5.2キロメートル、バスで20分の交通至便の地にある。	
開 設 者	旭川市長 五十嵐 広 三	
病 院 長	旭川市技術吏員 押 味 賢 吾	
診 療 科	内科、外科、耳鼻咽喉科、産婦人科、眼科、小児科、皮膚科、整形外科、泌尿器科、精神神経科、放射線科、胸部外科、麻酔科	
病 床 数	587床（許可病床数） 内訳 一般374床、精神100床 結核 68床、伝染 45床	
一般病床の年間平均稼働率	一般入院患者延数 115,258人 延病床数 139,080床 82.9%	
年間患者延数	入院患者延数 179,594人 外来患者延数 186,691人	
職 員 数 () 常 勤	医師39人(35人) 薬剤師9人(9人) 看護婦127人(126人) 准看護婦140人(140人) 看護助手22人(11人) 診療放射線技師8人(7人) 臨床検査技師17人(17人) 栄養士4人(4人) その他の技術職員4人(4人) 事務職員40人(32人) その他の職員81人(46人) 合計491人(431人)	
建 物 面 積 率	建築面積8,120.643平方メートル 建築延面積 17,462.919平方メートル 一病床当り床面積 6.23平方メートル	
臨床研修病院	昭和47年12月23日医師法第16条の2に基づく申請	2月12日医師研修審議会に提案 4月指定見込
総合病院名称 使用承認年月日	昭和34年3月30日	
基準看護承認 年 月 日	一般(特類) 昭和47年2月1日 結核(三類) 昭和33年7月1日 精神(二類) 昭和39年4月1日	
基準給食承認 年 月 日	昭和33年7月1日	

概 要		備 考																											
基準寝具設備 承認年月日	昭和39年4月1日																												
現在の中央診療施設特殊診療施設の職種別職員数等																													
施設名	面積	医師	看護要員	医療技術員	その他																								
放射線部門	616.56㎡	非常勤1人	2人	8人	4人																								
検査部門	622.2	常勤1人 非常勤3人		17	12																								
手術部門	355.49		13		1																								
材料部門	167.16		3		10																								
救急部門	37.72		1																										
未熟児部門	30.22		3																										
分娩部門	121.73		2																										
理学療法部門	160.94			4																									
臨床検査件数	年間 449,834件 1日平均 1,515件																												
手術件数	年間（1件千点以上）905件 1日平均 3件																												
分娩件数	年間 396件 1日平均 1.08件																												
放射線照射件数	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>X線透視</th> <th>X線直接撮影</th> <th>X線間接撮影</th> <th>X線治療装置</th> <th>60 CO治療装置</th> <th>βトロンリニアック</th> <th>その他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>年間</td> <td>528件</td> <td>84,846件</td> <td>1,010件</td> <td>618件</td> <td>5,809件</td> <td></td> <td>2,055件</td> </tr> <tr> <td>1日平均</td> <td>1.72</td> <td>285.7</td> <td>3.4</td> <td>2.1</td> <td>19.6</td> <td></td> <td>6.9</td> </tr> </tbody> </table>						X線透視	X線直接撮影	X線間接撮影	X線治療装置	60 CO治療装置	βトロンリニアック	その他	年間	528件	84,846件	1,010件	618件	5,809件		2,055件	1日平均	1.72	285.7	3.4	2.1	19.6		6.9
	X線透視	X線直接撮影	X線間接撮影	X線治療装置	60 CO治療装置	βトロンリニアック	その他																						
年間	528件	84,846件	1,010件	618件	5,809件		2,055件																						
1日平均	1.72	285.7	3.4	2.1	19.6		6.9																						
現在の教育研究施設	図書室1室 141.43平方メートル 会議室3室 119.2平方メートル																												
病理解剖件数および剖検率等	年間死亡患者数 229人 年間病理解剖件数 74件 剖検率 32.2% 病理解剖医数 4人（うち非常勤3人）																												
病院内における研究会	医局抄読会 12回 内科抄読会 52回 放射線カンファレンス 24回 内科カンファレンス 52回 外科カンファレンス 52回 小児科カンファレンス 52回 検査科カンファレンス 12回																												

	概	要	備	考
整備計画	胸部外科カンファレンス		52回	
	内科・胸部外科合同カンファレンス		52回	
	内科・外科・胸部外科合同			
	カンファレンス		52回	
	薬局カンファレンス		24回	
	看護科カンファレンス		12回	
	病棟新築	予算	300,000千円	
	屋外下水道改修	〃	5,000	
	ボイラー設備等増設	〃	75,000	
	講堂及会議室増築	〃	37,500	
	研究室改修	〃	17,700	
	中央検査部門改修	〃	7,000	
	中央検査器械設備	〃	85,000	
	診療科備品	〃	147,000	
図書	〃	38,000		
学術専門雑誌	〃	25,400		
事務費	〃	3,600		
合計	〃	741,200		
整備計画細目	○病棟新築			
	R C造地上5階4,465平方メートル			着工47. 7. 3
	300床			竣工48. 3.10
	(現在の病床数と整備計画後の病床数)			
	現在病床数 572床			
	新築後使用可能病床数 607床			
	○屋外下水道改修			
	延長 580m			
	○ボイラー設備等増設			着工47. 8.15
	ボイラー器機1基増設			竣工48. 2. 1
ボイラー棟改築RC造				
(地上1階一部2階建548㎡)				
○講堂及会議室増築			着工47. 8.15	
ボイラー棟2階に講堂及会議室等を増築する。			竣工48. 2. 1	
講堂(大会議室) 1室 242.92㎡				
大会議室 2室 103.81㎡				
(整備後の会議室6室 465.93㎡)				
学生控室 室 50.86㎡				
医師研究室 1室 141.13㎡				
医師カンフレンス室 1室34.77㎡				
計 6室 573.49㎡				
○研究室改修			契約48. 2. 3	

概	要	備 考
	<p>現病棟を転用し、教授室、教官研究室、共同研究室、カンファレンスルーム、事務室、資料室、器材室、共同動物実験室、標本室等に整備改修する。</p> <p>教授室 16室 252.81㎡ 教官研究室 16室 475.2㎡ 共同研究室 5室 138.6㎡ カンファレンス室 2室 59.4㎡ 応接談話室外 18室 321.42㎡ 計 57室 1,247.43㎡</p>	竣工48. 3.31
	<p>○図書室改修 現病棟を転用し、図書室及病歴室等に整備改修する。</p> <p>図書室 192.29㎡ 書庫 130.00㎡ 閲覧室 62.29㎡</p>	<p>契約48. 2. 3 竣工48. 3.31</p>
	<p>○中央検査部門改修 現病棟を転用し整備改修する。</p> <p>現在</p> <p>検査部門 26室 622.22㎡ 解剖室 1室 40.00㎡ 計 27室 662.22㎡</p> <p>整備後</p> <p>検査部門 31室 923.04㎡ 解剖室 1室 91.95㎡ 計 32室 1,014.99㎡</p>	<p>契約48. 2. 3 竣工48. 3.31</p>
	<p>○中央検査部門機器設備 テクニコンオートアナライザーほか184点を整備する。</p>	<p>契約47.10.18 納入48. 3.31 納入率 80%</p>
	<p>○診療科備品 シンチカメラほか539点を整備する</p>	契約47.11. 8
	<p>○図 書 現在1,487冊（和1,028冊，洋459冊） 整備後7,656冊（和3,078冊，洋4,578冊）</p>	<p>納入48. 3.31 納入率 80%</p>
	<p>○学術専門雑誌 現在56種（和38種，洋18種） 整備後169種（和74種，洋95種） ほかにバックナンバー43種（和11種，洋32種）</p>	

概 要	備 考
-----	-----

○医師の補充強化
 医師の計画的配置に努め次のとおり実施する。

(2月末)

科 名	医 師 数			備 考
	常 勤	非 常 勤	計	
内 科	12	1	13	非常勤については、何れも48年度当初において常勤化する。
外 科	5		5	
耳鼻咽喉科	1	1	2	
産婦人科	2		2	
眼 科	1	1	2	
放射線科	1	1	2	
小 児 科	3		3	
整形外科	2		2	
皮 フ 科	1	1	2	
泌尿器科	2		2	
精神神経科	2	1	3	
胸部外科	3		3	
麻 酔 科	3		3	
検 査 科	1	1	2	
計	39	7	46	

○看護婦の適正配置
 新病棟完成後の看護単位数は次のとおり実施する。
 (看護単位別病床数及看護婦数)

単位別	科 別	病 床 数	看 護 婦 数	備 考
1	小・胸	45	16	3交替制勤務2・8実施 (一部3・8実施)
2	外	34	23	
3	外・胸	54	16	
4	産・泌	37	17	
5	整・皮	56	15	
6	精	50	15	
7	内	60	18	
8	内	51	22	
9	泌・眼・耳	57	16	
10	伝	45	17	
11	精	50	17	
12	結	68	15	
計		607	207	

以上、整備計画に基づき工事については、第1次、第2次エレベーター工事と分けて発注し、あと第3次工事として研究室改修と中央検査部門の改修を残しているが、2月3日に契約を終了し、第1次、第2次、エレベーター工事の分とともに昭和48年3月末に竣工を予定している。

5 職員宿舎建設地および宿舎計画

職員宿舎用地は、大学建設用地に隣接している旭川市の神楽岡団地（ニュータウン）内であって、その概要は次のとおりである。

概	要	備 考
位置および面積	所在地は、旭川市緑が丘2条3丁目3番地で、神楽岡団地(計画面積940,000平方メートル、計画人口10,200人、計画戸数2,770戸)内に37,340平方メートル(11,295坪)を確保している。	
所 有 者	旭川市の所有地であるが、協力がが400戸分の敷地を近く旭川市から買収する予定である。	
基 盤 整 備	上、下水道等の基盤整備については、完了済である。	

職員宿舎全体計画のうち、協力がが130戸を年次計画により昭和48年度から3年間で建築するものとし、なお、開校当初に必要な住宅は、別途確保する。その概要は次のとおりである。

概	要	備 考
建 築 計 画	協力がが建築する130戸については、昭和48年度から3年間で建築する予定である。建築後の貸与条件は、国家公務員と同様の取扱いをするものとする。	
開校時の住宅	なお、その後の住宅建築については文部省において、年次計画により建築される予定である。 開校当初に必要な住宅の確保については、協力がにおいて、職員の配置状況に対応して借上げの方法によって借上げるほか、50年度までの間において必要がある場合は、借上げ宿舎を確保する。	

6 その他

イ 図書および機械器具等の整備

図書および機械器具等の整備については、既に業者との間に売買契約を締結し、最終の納入期限を昭和48年3月中として発注済であり、その概要は次のとおりである。

概	要	備 考
図 書	進学課程分は合計6,032冊。この内訳は和書3,050冊、洋書2,982冊である。専門課程分は合計12,026冊。この内訳は、基礎関係5,857冊で、このうち和書1,826冊、洋書4,031冊である。また臨床関係は6,169冊で、このうち和書2,050冊、洋書4,119冊である。	
学 術 雑 誌	進学課程は合計27種、この内訳は、内国関係13種、外国関係14種である。 専門課程は、154種で、この内訳は基礎関係41種で、こ	

	概 要	備 考
機 械 器 具 標 本	<p>のうち内国関係8種、外国関係33種である。また、臨床関係は113種、このうち、内国関係36種、外国関係77種である。なお、バックナンバーについては、専門課程で合計71種、この内訳は、基礎関係28種、このうち、内国関係9種、外国関係19種である。</p> <p>また、臨床関係は、43種で、このうち内国関係11種、外国関係32種である。</p> <p>進学課程分514点、専門課程分1,776点このうち基礎関係は1,053点、臨床関係は723点で合計2,290点である。進学課程分が59点、専門課程分が49点で、合計108点である。</p>	

ロ 看護婦対策

概要は次のとおりである。

概 要	備 考
<p>看護婦対策については、昭和48年度から道立看護学院を旭川市永山町12丁目に所在する旭川大学の一部校舎を借上げて学生80名の規模で開校することに既に旭川大学内に準備室を設け、専任職員を配置して開校準備および学生の募集を行なっている。</p> <p>実習病院については、市立旭川病院を予定している。</p> <p>看護婦長等については、道内の国公立病院等の協力を得て確保に努める。</p>	

ハ 解剖体の確保

医科大学設置のための解剖体提供について協力を得ているが、その概要は次のとおりである。

概 要	備 考
<p>1 市社会福祉事務所の協力</p> <p>昭和47年8月30日に旭川市を中心とした道北、道東地域の13市の社会福祉事務所に解剖体提供について協力方を依頼し、年間協力体数として合計52体の確保を得ている。その内訳は、旭川市17体、帯広市5体、北見市5体、網走市2体、留萌市3体、稚内市3体、芦別市1体、紋別市4体、士別市3体、名寄市3体、滝川市4体、深川市1体、富良野市1体である。</p> <p>2 白菊会員の協力</p> <p>昭和47年8月2日白菊会北海道幹事合田真一氏（旭川市連絡所長）に新設医科大学のための白菊会員の募集について協力方を要請し、確約を得、既にその呼びかけが開始されている。その結果、昭和48年1月31日現在7名の会員申込みがあり、医科大学設立と共に道北、道東地域からの会員申込みは増加する可能性がある。</p>	